

# アナログからデジタルへの環境変化と仕事の意識に関する研究

## ～歯科技工士を対象として～

### 論文要旨

本研究では、アナログからデジタルへの環境変化の中で歯科技工士の意識に焦点をあて、デジタル化が普及しない要因を導き出し問題解決の糸口を探った。

歯科技工業界におけるデジタル化の研究は、業界全体および歯科技工所単位、教育の視点でなされており、デジタル化の主体となる歯科技工士個人の行動および考え方まで落とし込んだものは少ない。

そのため、この環境変化に直面している技術者の視点に立ち、なにが問題となっているのか実証的に明らかにする必要性があり、その理解によって技術の発展を支援していく方法論の検討が可能になると考える。

研究方法は、アナログからデジタルへの環境変化についてどのように感じているのか理解を深める為に歯科技工士のアナログおよびデジタル技術者にインタビュー調査を行った。

その結果、アナログ技術者とデジタル技術者の双方で認識の差によるギャップの存在が明らかになり、デジタル化普及への妨げの要因の1つとなっていることが分かった。また、共通認識としてアナログ・デジタル技術者は共に、互いの歩み寄りが必要と感じており、そのことにより、よりよいものづくりができると考えていた。この共通認識がデジタル技術普及の切り口として重要であることが示唆された。

今後、デジタル技術者の研究結果をアナログ技術者に提示し、双方の理解を深めることでデジタル化普及を支援していく方法論の検討が可能になのではと考える。